

報道資料

日時 令和元年12月2日(月)
 担当課 人権・地域教育課地域教育係
 担当者 指導主事 後藤 克久
 指導主事 吉村 俊朗
 連絡先 0742-27-9837(ダイヤルイン)
 内線5279

学校・家庭・地域が協働して、子どもたちの豊かな学びを創造！ ～地域学校協働活動に対し、文部科学大臣表彰～

文部科学省では、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が協働し、子どもたちの教育活動を推進する活動（地域学校協働活動）に対し、文部科学大臣表彰を行っています。

本年度、県内からは、下記の団体が表彰されることに決定しました。

1 被表彰団体と主な受賞理由

被表彰団体	天理市立櫟本小学校 「櫟小プロジェクト協議会」
主な受賞理由	○学校は地域みんなの宝物 地域に積極的に学校を開放することで、地域の方々が、学校に集い、子どもたちに関わる機会が増えることで、主体的に学校に関わるようになった。具体的な取組として、図書室の見守り活動としての「みんなのとしょかん」、子どもたちが平等に通える塾としての「町力塾（マチカ塾）」、子どもたちの夢を叶える応援をする「夢応援プロジェクト」、子どもたちと一緒に登校して、ふれあいを深めていただく「夢みまもりプロジェクト」が進められている。さらに、その推進のための組織を整理し、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的推進を図っている。

被表彰団体	御所市立大正中学校 「大正『学び力』育成委員会」
主な受賞理由	○共有した目標について学校と地域が役割分担 学校の課題を地域に開くことで、地域と学校が共有した「学び力」の育成という目標に対して、「学校がすること」としての「みんなの授業研」、「地域がすること」としての「中学生友の会（夜間の学習会）」、「学校と地域が協働すること」としての「大正土曜塾」と、役割分担された取組が、コーディネーターを介し、互いに関わりをもちながら取組が進められている。さらに、その関わりは、地域の方々や諸団体にとどまらず、「子ども食堂」など市の福祉部局との連携も図られており、学校を中心とした緩やかなネットワークが形成されている。

被表彰団体	県立西の京高等学校 ～高校生からの提言～
主な受賞理由	○「社会に開かれた教育課程」を実践 「地域創生コース」において、地域の発展に貢献し、地域の良さを発信できる人材の育成を目標に、教育課程の中で「奈良県の現状」や「地域社会のあり方」等を履修する。その後、課題研究として、様々な地域の課題とその解決策について研究に取り組んでいる。研究成果は地域フォーラムにおいて「高校生からの提言」として発表している。 地域の諸団体や企業、NPO法人、幼稚園、小学校等、幅広く社会と連携し、「社会に開かれた教育課程」を実践しており、地域の方々の学校に対する期待も大きい。

被表彰団体	県立二階堂高等学校 地域社会とつながったキャリア教育
主な受賞理由	○生徒の学びと実社会とのつながりを大切に 「キャリアデザイン科」として、知識や技能の修得だけでなく、多様な人々とつながり、主体的に生きていく力の育成を目標に、フィールドワークを含めたテーマ設定・分析・中間発表・検証・最終発表と学習を進め、さらに、地元企業と連携した商品開発や販売に向けた活動など、実社会とのつながりを大切にした取組を行っている。 研究成果は「二階堂フェスタ」において一般公開され、また、様々な施設への訪問や地域清掃、交通安全啓発など、地域との協働活動にも継続的に取り組むなど、「社会に開かれた教育課程」を実践している。

★ 奈良市からは、若草中学校区地域教育協議会も表彰されます。奈良市は中核市のため、詳細は、奈良市教育委員会にお問い合わせください。

2 表彰式

令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

日時 令和元年12月2日(月) 14:10～16:45
 会場 文部科学省内東館3階講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)